

「四国コンテンツ映像フェスタ2018」上映審査会・表彰式を開催

《地元愛にあふれ、四国を元気にする映像作品のコンテスト》

四国総合通信局(局長:村松 茂(むらまつ しげる))は、四国情報通信懇談会(会長:松田 清宏(まつだ きよひろ))四国旅客鉄道株式会社相談役との共催により、平成31年1月31日(木)徳島市において「四国コンテンツ映像フェスタ2018」上映審査会及び表彰式を開催し、96名が参加しました。

「四国コンテンツ映像フェスタ」は、「地域づくり・人づくり」を目的に、地域のデジタル動画コンテンツ制作者に作品発表の機会を提供するもので、12回目の開催となる今年は「四国を元気にする!」をテーマに79作品もの応募がありました。

当日は、講演会、上映審査会及び表彰式の三部構成で行い、第一部では、徳島県三好市出身で、地元徳島を題材にした映像制作を手がけられる映画監督 蔦 哲一朗氏を講師に迎え、映画制作を始めたきっかけや三好市で製作した映画『祖谷物語ーおくのひとー』の完成までの流れ、また祖谷の山で害獣駆除された鹿の皮を製品にして販売していることなどを講演いただきました。

蔦氏は、「おもしろい映画を作るためには、既存の価値観にとらわれないことが大事。自分の身近な問題に向き合っているものが、世界の人に通じるテーマとなる。『笑いたい』『ハラハラしたい』『世界(社会問題)を知りたい』など、なぜ自分が映画を見るのかを考え、まずは自分のために映画を作り、自分が一番の観客になることが、たくさんの人にってもらえるおもしろい映画になる。」と締めくくられました。

上映審査会及び表彰式では、Web審査や審査員審査の結果、「アマチュア」、「プロ・セミプロ・自治体」及び「小・中学生」の部門別にノミネートされた9作品を上映し、制作者のプレゼンや審査員による講評のあと、部門別に「最優秀賞」、「優秀賞」を発表・表彰しました。

このほか、特に「四国を元気にするテーマ」が表現されている優秀な作品を「特別賞」、ゲスト審査員の蔦氏が選んだ作品を「審査員特別賞」として、それぞれ表彰しました。

また今回は、全校をあげて映像制作に取り組み、多数の作品を応募された2つの学校に対し、「地域貢献賞」を授与しました。

参加者からは、「作品で取り上げられた場所に行ってみたい」「制作者の熱い思いを知ることができてよかった」「今回学んだことを生かし、これからも映像作品を創っていきたい」「作品のクオリティの高さに驚いた」「受賞者にはさらにステップアップしてほしい」などの感想が寄せられ、地域の魅力や可能性をあらためて実感できる機会となりました。

四国総合通信局では今後も地域の魅力を発信する映像コンテンツに着目した人材育成や地域活性化に取り組んでまいります。



【第一部 講演会】

演題:「映画を通して、地方を考える」

講師:映画監督 蔦 哲一朗(つた てついちろう)氏

【第二部 上映審査会】

ノミネート作品の上映、制作者によるPR及び

審査員による講評

【第三部 表彰式】

最優秀賞、優秀賞、特別賞、審査員特別賞、
地域貢献賞の表彰

最優秀賞作品



【アマチュア部門】
「PHOTOGRAPHER HONAMI カメラ女子
小豆島の旅」
小野寺 誠 様

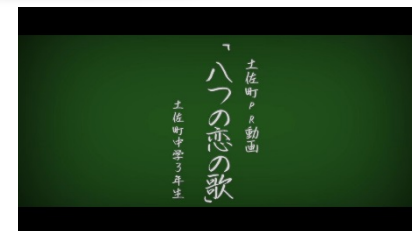


【プロ・セミプロ・自治体部門】
「ウォータースポーツのまち『三好市』」
坪根 道生 様



【小・中学生部門】
「立憲の志」
土佐中学校放送部 様

審査員特別賞作品



【小・中学生部門】
「八つの恋の歌」
土佐町役場/土佐町中学校3年生 様